

パンデミックの状況を乗り越えていくために

「コロナ禍での共同募金会の役割」

令和2年1月15日、国内初の感染例が神奈川県内で確認された新型コロナウイルス感染症。

ことし7月に再びウイルス感染症の第7波が全国的に急拡大し、医療現場や関係機関では引き続き緊急の対応が行われています。

福祉の分野でも、国民の外出自粛や企業の臨時休業などによって急増した生活困窮世帯への対応が急務となり、感染の収束が見通せない今もなお、継続的な支援が行われています。

さらに、長期化するコロナ禍によって、子どもたちが成長していくために必要な体験や経験の場の減少など、新たな課題への対応が求められています。

神奈川県共同募金会では、引き続き全国共通テーマである「つながりをたやさない社会づくり」のもとに、皆さまとともに直近の課題に取り組んでまいります。

生活の基本となる「食支援」を継続的に実施しています！

令和2年3月、県共同募金会では、全国の教育機関が臨時休校となり、感染拡大を防止するために子ども食堂に来ることが出来なくなった子どもたちへの「食支援」を直ちに開始しました。

さらに4月からは、企業の臨時休業などの影響で生活に困窮される方が急増したため、コロナ禍以前から県共同募金会の協働パートナーである株式会社日本カストディ銀行（東京都中央区）より、食品類（米、レトルト食品、缶詰、飲料等）や日用生活品を中心とした多くの株主優待品を定期的にご提供いただき、社会福祉協議会やNPO法人等と連携して、今日・明日の食事にも困っている方々へ、物資による緊急支援事業を開始しました。

県共同募金会では、コロナ禍での社会的な課題に対して、さまざまな視点で対応に取り組むボランティアな活動を資金面で支えていくために、令和2年3月から公益団体への緊急配分を実施しています。

パンデミックの状況下においては、時間の経過とともに日々課題が変化していくため、行政機関や社会福祉協議会、NPOや医療関係機関等からの現場の情報をもとに、順次支援対象を拡大しながら後掲による活動等を支援しています。

◇子ども食堂等による会食・配食活動
◇フードバンク・フードパントリー運営事業

◇子どもたちの声を受け止めるチャイルドライン活動



毎回、多くの方が訪れる横浜市内でのフードパントリー事業

- ◇大学生による中学生・高校生を対象とした学習支援活動
 - ◇外国に繋がる子どもと家族への日常生活支援事業
 - ◇女性支援団体によるDV被害者への緊急保護活動など
- 未来を担う児童福祉施設の子どもの思い出しへの支援をしています！**

大勢の子どもたちが一緒に生活している児童養護施設等では、コロナ禍でのクラスターの発生防止に細心の注意が払われています。特に、従来から実施してきた施設単位、グループ単位での体験学習をはじめ、各種行事は中止または縮小せざるを得ない状況が続いています。

県共同募金会では、企業や法人の皆さまとともに、コロナ禍でも出来る子どもたちへの新たな体験や思い出をつくる活動を支援しています。

公益財団法人神奈川県厚生文化事業団（横浜市中区）では、毎年、福祉施設の関係者とともに児童養護施設等で生活する中学校の卒業生を中心に、県外の宿泊体験を兼ねたスキー教室を開催されてきました。令和元年度より、コロナ禍で事業を中止せざるを得ない状況が続いていましたが、関係者による子どもたちへの熱い思いのもとに、感染予防に配慮した代替事業を検討された結果、日本航空株式

県共同募金会へ食材を中心とした株主優待品の配送作業を行う日本カストディ銀行のスタッフの皆さん



日は、17施設81人の子どもたちとスタッフが招待され、子どもたちの多くは飛行機の搭乗はもとより、空港に来ることも初めてという貴重な体験に心を弾ませていました。

また、ビバリーグレンラボラトリーズ株式会社（東京都港区）では、母子生活支



初めての搭乗に胸を躍らせる児童養護施設の子もたち



チャリティーセールでの共同募金会との協働プロジェクトPR画像

クト（写真）を立ち上げて、同社が運営する化粧品品の製造販売事業を通じて、令和3年度も引き続き10月26日から3日間

「チャリティーセール」を開催していただきました。チャリティーは、子どもたちの体験や経験のための事業や、オンライン化が進む学習環境を整備するための資金として、県共同募金会を通じて収益の全額（1,803万1,276円）を県内すべての母子生活支援施設（公立を除く9施設）と児童養護施設（32施設）へお届けさせていただきました。

福祉医療病院等で医療に従事されている方々を応援しています！

県共同募金会では、神奈川県医療福祉施設協同組合（横浜市神奈川区）と協働で、コロナ禍でのウイルス感染者への対応をはじめ、生計が困難な方々の無料・低額診療を行っている福祉医療病院等に従事されている方々を応援しています。

株式会社ファンケル（横浜市中区）では、ウイルス感染が拡大し始めた当初から、昼夜を問わず未知のウイルスと闘う医療従事者を応援するために、県共同募金会を通じて同社製の健康サプリメントや化粧品等を、福祉医療病院等へ定期的に継続的に寄贈していただいています。

令和4年7月に再びウイルス感染の第7波が全国的に急拡大している中、引き続き医療従事者を応援するための温かいお気持ち、企業をはじめ県民の皆さまから多数寄せられています。